

11 月の日本留学試験 (EJU) 結果

進学クラス平均 284.7 点

国内外平均を 49.3 ポイント上回る

11 月 15 日に世界 15 か国で実施された 2020 年度第 2 回日本留学試験(EJU)の結果が、12 月 18 日に発表されました。6 月の第 1 回試験が中止となり、依然としてコロナ禍の続くなか、国内外の総受験者数は、前年より約 3,000 人少ない 24,634 人でした。(うち「日本語」の受験者は 24,290 人)

校内トップは尹暎暎さん

校内では 29 人(うち進学クラス 28 人)が受験し、進学クラスの尹暎暎さん(韓国)が「日本語」(400 点満点)で 354 点を得点し、校内トップでした。全世界の最高点は 371 点でした。

また、連珮安さん(台湾)は、昨年 10 月に初級クラスに入学して 1 年余りの学習でしたが、317 点という素晴らしい成績でした。

世界平均に 50 ポイント近くの大差

進学クラス(A、B クラス)の平均点は 284.7 点で、世界全体の平均 238.4 点を 49.3 ポイント上回りました。(2019 年 11 月の EJU では 41.8 ポイントの差でした。)

「聴解・聴読解」で世界最高点

分野別に得点状況を見ると、「聴解・聴読解」(200 点満点)で、Lee Chee Hong さん(マレーシア)が世界最高点の 173 点を記録しました。また、「読解」(200 点満点)では、尹暎暎さんと車玫恵さんが 195 点で校内最高でした。日本語の「記述」(50 点満点)では車玫恵さんが 50 点で世界最高でした。

「日本語」校内ベスト 5 (400 点満点)

順位	クラス	氏名	出身	得点
1	A	尹 暎暎	韓国	354
2	A	車 玫恵	韓国	345
3	A	楊 喩晴	台湾	336
4	A	Phanswan Chaichumphone	タイ	334
5	A	Mahesa Pamungkas Sugiharuto	インドネシア	332

大学生とオンラインで
「大交流会」

12 月 23 日に、JET 初のオンライン「大交流会」が行われました。

例年であればハイライフプラザに地域の方々や日本人大学生をお招きして、各国の料理を楽しみながらゲームやビンゴでわいわい交流を楽しむ「大忘年会」を開催するところですが、状況を鑑み、今年度は対面での実施を断腸の思いで取りやめることとなりました。

そこで開かれたのが今回のオンライン「大交流会」。学生団体 WIC、SNIE、SAGE、そして学習院大、東京女子大から総勢 30 名の大学生にご参加いただき、初の試みながらオンラインで 120 名越えの大きなイベントとなりました。

機能上の面で参加者全員が一堂に会することが難しく、当日は 1 グループあたり 8 名 (A~H クラス混合 6 名、大学生 2 名) の全 15 グループが 5 つのアカウントに分かれ、フリートークやグループ対抗のゲームを行いました。ゲームでは賞品を巡って各アカウントで熱戦が繰り広げられ、大盛り上がりでした！賞品は、勝利チーム全員に JET の後援会からアマゾンのギフトコード (オンライン上で贈呈できるものから決めました) が贈られました。

今年度は様々なイベントが軒並み中止、延期となり、学習を通して得た知識を外で実践し身につけるという場がなかなか持てずにいました。未だ続くコロナ禍においてもこのような

イベントが開催できたことは、ご参加、ご協力いただいた皆様のおかげです。教師にも学びや発見がたくさんありました。ありがとうございました！(郷野真彩)



一ポスター(白板)に掲示は、オンラインで制作しました。



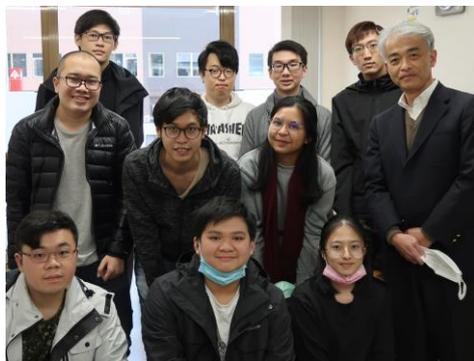
やっと来日! 10月生23名

幾多のハードル乗り越えて

入国制限の緩和に伴い、10月期生が10月中に10名、11月に10名、12月に3名と、これまで23名が来日を果たしました。残る3名は1月以降の予定です。

出国前と入国時のPCR検査、14日間のホテル待機など、いくつものハードルをひとつひとつ乗り越えて実現した日本留学だけに、喜びも一入(ひとしお)のようです。

来日した新入生たちに、いま思うところを尋ねたところ、端末の画面を通して受ける授業は「集中が難しく、眠くなりやすかった」が、「毎日クラスで勉強するのは本当に楽しい」、「先生や友達に会えてうれしくてしょうがない」という声が多く聞かれました。一方、「授業後に日本語を話す機会がほとんどない」、「日本の文化やイベントをもっと体験してみたい」など、現状では仕方ないこととは言え、せつかくの日本留学が謳歌できないのを残念がる声もありました。



遅れながらも来日した新入生たちに、校長がクラスを巡回し歓迎の挨拶をしました。

アクティビティ

○12月7日 文楽鑑賞

12月7日、学生9名と文楽鑑賞教室(国立劇場)へ行ってきました。演目は「二人禿」と「芦屋道満大内鑑」。3人の手で操られるそれぞれの人形が生命を宿し、喜怒哀楽の表情を見せる様に目が離せませんでした。帰り道に学生同士で、女性の静々

とした歩き方や着物の袖で涙をぬぐう姿を真似したり、登場人物の心情について意見交換したりしていました。新たな発見があったようです。

(郷野)



○高木副理事長から美術展の招待

JETの副理事長で衆議院議員の高木啓先生から、東京都の4つの美術展の招待券を頂きました。先着順で学生に配布したところ、即「完売」。素敵なクリスマスプレゼントをありがとうございました!

○12月20日 佐々木真フルートリサイタル

銀座の王子ホールで12月20日に行われたフルートリサイタルに、本年も佐々木真さんからご招待いただきました。共演は石井克典氏(ピアノ)とD.フェイギン氏(チェロ)。3つの楽器が織りなす豊かな音色とその輝きが、この一年の思い出一つ一つを彩ってくれるイルミネーションのようで、初めてクラシックコンサートを見た学生も、生演奏の素晴らしさに胸を打たれた様子でした。年の瀬の寒さが染みるこの季節に、心まで深く温まる幸せな時間を過ごすことができました。(郷野)

学校日誌

- 11月2日、30日 専門学校面接練習
- 11月2日 就職ガイダンス
- 11月19日 英語学習説明会と数学レベルチェック
- 12月7日 レントゲン健診
- 12月11日 避難訓練
- 12月14日 大学院研究計画発表会
- 12月15日 漢字クラス進級テスト

コロナ禍での学生の努力と学習成果

主任教諭 木村 晴美

今年度はコロナ禍ですべてのクラスで、実施期間こそ異なるがオンラインで学習が行われ、学生にとっても教師にとっても不自由な学習環境となった。当初、これが学生の勉強の理解度や授業進度に大きな影響を与えるのではないかと心配された。第1回目のEJU、JLPTが相次いで中止となり、それを目標に頑張ってきた学生達もさぞかし不安だったに違いない。

しかし、教師陣の心配をよそにオンライン授業開始時からPCの画面には集中して授業に臨む学生の顔が見られた。さらにその学習成果は、例年を上回る結果として各種のテストの結果に表れた。例えば11月下旬に行われた進学科のABクラス合同のJLPT1級模擬テストでは、合計点において昨年の平均点を10点以上超え、教師陣を驚かせた。対面授業になってからも、放課後学校に残って勉強することさえ難しい状況だったのだが、それぞれが強い意志を持ち効率的に自宅での学習に取り組めた結果だと思ふ。

このコロナ禍で学生の自立した学習態度が育ったことは、大きな収穫だった。これはJETの学生全体に通じる。宿題の提出状況のよさ、良好な出席状況、授業への真剣な参加態度にそれが窺える。何より、それが学習成果として現れている。

今年度の学生は、このコロナ禍でも日本に残って進学したい、日本に来て学びたいという強い覚悟を持って授業に臨んでおり、そのことが多少の困難にも負けない耐性を育み、勉強への意欲を維持させているに違いない。

最後に、基礎科のクラスでの学びを付け加えたい。オンライン授業の学生が入国後待機期間を経て、一人二人と登校し教室に入っていった時のことである。彼らを迎えるクラスメイトの歓声があがり、その度に学校中が笑顔で包まれた。やっと直接会えた顔と顔。大歓迎で迎えられ、お互いに会えた喜びをかみしているようだった。彼らは休み時間も日本語で積極的にやりとりしており、授業後もずっと日本語で話している。まさに理想的な学びの姿を見せてくれている。この成果もまもなく現れるに違いない。コロナで気づいた学びの発見である。